

令和 7 年 定 例 第 2 回 市 議 会 会 議 録 (第 4 日)

令和 7 年 6 月 20 日 午前 9 時 30 分 定 例 第 2 回 市 議 会 を み や ま 市 役 所 議 場 に 招 集 し た。

1. 応招議員は次のとおりである。

1 番	諸 富 正 也	10 番	上津原 博
3 番	黒 田 清 隆	11 番	荒 巻 隆 伸
4 番	河 野 一 仁	12 番	瀬 口 健
5 番	森 弘 子	13 番	中 尾 眞智子
6 番	奥 藺 由美子	14 番	中 島 一 博
7 番	吉 原 政 宏	15 番	宮 本 五 市
8 番	古 賀 義 教	16 番	牛 嶋 利 三
9 番	前 原 武 美		

2. 不応招議員は次のとおりである。

2 番	三小田 智 裕
-----	---------

3. 出席議員は次のとおりである。

出席議員は応招議員と同じである。

4. 欠席議員は次のとおりである。

欠席議員は不応招議員と同じである。

5. 本会議の書記は、次のとおりである。

議 会 事 務 局 長	久 保 井	千 代	係	長	高 野	志 乃 扶
参 与	田 中	裕 樹	書	記	池 田	祐 司

6. 地方自治法第121条の規定により、会議事件説明のため出席を求めた者は次のとおりである。

市 長	松 嶋	盛 人	総 務 課 長	平 川	貞 雄
副 市 長	森 田	泰 平	財 政 課 長	大 坪	康 春
教 育 長	藤 岡	育 代	総 合 政 策 課 長	村 越	公 貞
総 務 部 長	梶 嶋	晋 治	商 工 観 光 課 長	垣 田	智 章
企 画 部 長	坂 本	生 治	社 会 教 育 課 長	村 井	美 和
保健福祉部長兼 福祉事務所長	田 中	聡 美	総合政策課長補佐 兼シティプロ モーション係長	池 末	洋
市 民 部 長 兼 市 民 課 長	松 藤	典 子	総合政策課長補佐 兼ワンヘルス 総合推進室長	山 下	昭 文
環 境 経 済 部 長	岡	俊 幸	総合政策課公共 交通政策係長	江 崎	幸 太 郎
建 設 都 市 部 長	城 戸	邦 宏	商 工 観 光 課 商 工 観 光 係 商 工 担 当 係 長	中 島	舞 子
教 育 部 長	堤	則 勝	社会教育課社会 教育係総合市民 センター企画・ 運営担当係長	森	脩 平
消 防 長	北 嶋	俊 治			

7. 付議事件は、次のとおりである。

(1) 一般質問（1日目）

質 問 者			質 問 件 名
順位	議席 番号	氏 名	
11	3	黒 田 清 隆	1. みやま市におけるフィルムコミッション設立の推進について
12	5	森 弘 子	1. みやま市の観光のひとつ、「清水山ぼたん園」にもっと力を 2. ミヤマックスロビーコンサートへ聞きに行けない人の対策について

午前9時30分 開議

○議長（牛嶋利三君）

これより直ちに本日の会議を開きます。

2番三小田議員につきましては欠席届が出ておりますので、そのことについては許可をしておりますので、御承知おきをお願いしておきたいと思います。

日程第1 一般質問

○議長（牛嶋利三君）

日程第1. 一般質問を行ってまいります。

一般質問につきましては、主題ごとに質問を行っていただくようお願いいたします。具体的事項が複数ある場合におきましても、具体的事項ごとに切らずにまとめて質問をしていただくようお願いいたします。

また、会議規則第62条に基づきまして、市の一般事務の範囲外にわたる質問や通告をしていない質問がないよう、通告書に沿って質問を行っていただくようお願いをしておきます。

また、会議規則第55条の規定のとおり、発言は全て簡明にされるようお願いをいたします。特に、執行部におきましても、昨日は副議長のほうから動議が出て、会議が中断するというような事態も発生しておりますので、特に簡明な答弁をお願いしておきたいと思います。

それでは、順番に発言を許します。

まず、3番黒田清隆君、一般質問を行ってください。

○3番（黒田清隆君）（登壇）

改めましておはようございます。一般質問も3日目に突入しました。執行部の皆様、お体は大丈夫でしょうか。3日目に入りましたので、どうぞよろしくお願いします。

それでは、始めさせていただきます。ただいま議長の許可が出ましたので、一般質問を行います。

第2期みやま市シティプロモーション戦略の具体的戦略の中に、定住・移住、ワンヘルスの推進・プロモーションの取組の発信とあります。

本市では、出生数の減少や高齢化による人口減少が顕著な問題となっております。いきなり移住・定住を促すのはハードルが高いのでは。まずは交流人口を増やし、地域に関心を持つ関係人口を育てることが大切です。

交流人口とは、地域を訪れ、地域資源に触れることで地域に関心を持つ人々のこと、関係人口とは、地域外に住みながらも継続的に地域と関わりを持ち、地域に貢献する人々のことです。また、ワンヘルスのプロモーションを進めることも重要です。

近年、映画やドラマのロケ地を訪問する聖地巡礼、ロケツーリズムが観光資源として注目され、地域の活性化に大きく寄与しています。

全国では、多くの自治体がフィルムコミッションを設立し、地域の魅力発信や観光振興、経済効果、雇用創出、住民意識の向上など、多様な効果を上げています。みやま市にも豊かな自然や歴史的景観、福岡市からのアクセスのよさなどからロケ地として魅力があります。フィルムコミッションの設立を検討することで、交流人口、関係人口の拡大を図り、地域活性化へとつながれると期待しています。

第2期みやま市シティプロモーション戦略では、みやま暮らしの豊かさを市民と共有し、さらに訪問者に伝え、そしてファンをつくることを基本理念に掲げておられます。具体的には、SNSなどを活用した情報発信、地域体験プログラムの企画など様々な施策を進めていることは承知しております。また来たい、次は誰かを連れてきたい、そんなふうにもってもらえるような交流人口、関係人口の拡大が、地域の経済や文化の活性化、そして、将来的な移住・定住へとつながる大切な基盤です。市としてどのような取組を進めておられるのか、現在の状況や今後の方向性についてお聞かせください。市長に伺います。

○議長（牛嶋利三君）

松嶋市長。

○市長（松嶋盛人君）（登壇）

改めまして、皆様おはようございます。3日目の一般質問ということで、どうぞよろしくお願い申し上げます。

では、黒田議員のみやま市におけるフィルムコミッション設立の推進についての御質問にお答えします。

まず、1点目のシティプロモーションの戦略についてでございますが、第2期シティプロモーション戦略では、今ある資源を生かし、みやま暮らしのブランドイメージの向上を図るとともに、みやまの魅力とみやまでの暮らしのイメージを市外に向けて伝える活動、情報発信の重要性を掲げています。

移住・定住創出に向けた情報発信につきましては、市のホームページに特設サイトを立ち上げて、移住・定住に関する情報を取りまとめ、移住を検討されている方々に必要な情報を発信しております。

また、本市の子育て環境や移住支援制度、まちの魅力などを取りまとめた移住・定住ガイドブックの作成やインターネットを活用したPR広告なども活用し、関係人口の創出に向けた情報発信に努めております。

加えて、シティプロモーションのコンセプトに沿った体験プログラム「つきなみ旅」やグリーンツーリズム事業の収穫体験バスツアー、歴史的なガイドつきオルレイVENTを造成し、SNSを中心に情報発信することで交流人口の拡大を図る取組を実施しております。

最後に、ワンヘルスの推進プロモーションについてでございますが、広報紙やホームページ、SNSを活用した情報発信、市民講座のワンヘルス楽校の開催や、幅広い世代の方が気軽に参加できるワンヘルスフェスティバルの開催など、ワンヘルスに関する普及啓発活動に努めております。

今後も、各種施策を通じて、本市の関係人口、交流人口の増加を図り、地域活性化につなげてまいります。

次に、2点目のフィルムコミッション設立についてでございますが、フィルムコミッションとは、映画やドラマなどの撮影を誘致し、ロケーション情報の提供や撮影許可の仲介、エキストラ・ボランティアスタッフの確保など、撮影に関する様々なサービスを支援することで、地域の知名度向上や観光促進を目的とする非営利組織だと認識しております。

フィルムコミッション活動の全国的な協議会組織であるNPO法人ジャパン・フィルムコミッションによりますと、フィルムコミッションの3要件として、非営利公的機関であること、撮影のためのワンストップサービスを提供していること、作品内容は問わないことを挙げられています。

県内では、福岡市、北九州市、田川市、うきは市、柳川市、八女市などにおいてフィルムコミッションの設立事例が見られます。

フィルムコミッションの効果としては、ロケーションされた映画やドラマを通じて、地域の知名度や地域愛着度を向上させる効果や、観光客の増加につながるなどの直接的、間接的な経済的効果が期待できるほか、ロケを契機としたロケツーリズムなどに展開することで、さらなる地域活性化への寄与も期待されているところです。

議員御指摘のとおり、本市は福岡市からのアクセスもよく、映画やドラマに適した自然環境やコンテンツがあり、映像化することで地域活性化につながる可能性はあると考えております。

一方で、全国の先行事例を見ますと、安定した運営のための財源確保、映像業界に精通した人材の不足、ロケ地としての優位性、生活環境や文化財保護の観点から生じる地域の受入れ体制の在り方など、持続的な地域活性化へ結びつけるためには様々な課題も生じています。

現在、本市において映画等の撮影に関する相談があった場合は、シティプロモーションの一環として位置づけ、総合政策課が窓口となり、必要に応じて商工観光課や市内事業者と調整を行い、撮影の支援を実施しております。皆様の記憶に新しい映画「シ・ン・ラ・イ」の撮影時も、できる限り協力をさせていただいたところでございます。

また、フィルムコミッションに求められる支援のワンストップサービスを実施するためには、少なくとも撮影期間中は専任できる職員を配置することや、地域の受入れ体制の構築、様々な調整作業なども必要になってまいります。

これらのことを踏まえますと、市が関与してフィルムコミッションの設立を進めるためには、まずは、設立による効果や課題等、調査研究が必要であると考えておりますので、御理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（牛嶋利三君）

3番黒田清隆君。

○3番（黒田清隆君）

ありがとうございます。

こうした取組は、単に人を呼ぶだけでなく、市民一人一人が地域の魅力を再確認し、誇りを持つことにもつながります。この意味でも、地域資源を見詰め直し、さらに高めていくことが大切だと考えます。

去年、令和6年定例第2回市議会の一般質問で、私はグリーンツーリズム、民泊、農泊の取組について一般質問をしました。その後、令和6年10月26日に南島原のひまわり観光協会の副会長が本市を訪れられ、講演をしていただきました。その後、民泊、農泊普及促進などの視点で新たな取組が進展しているのか、お尋ねします。

○議長（牛嶋利三君）

垣田商工観光課長。

○商工観光課長（垣田智章君）

私のほうからお答えいたします。

まず、グリーンツーリズムの取組について御説明をいたしますと、グリーンツーリズム推進協議会における取組でございますが、令和6年度にはJ R九州と連携し、収穫体験をメインとした市内周遊ツアーを4回実施いたしております。

加えまして、福岡県主催のよかバス商談会というのがありまして、それに参加をし、旅行会社クラブツーリズムのツアーにセロリの収穫体験や市内での昼食を組み込んでもらうことで、3日間合計107名の方に本市の魅力を体感していただいたところでございます。ほかにも清水山荘での宿泊モニターツアーを2回実施いたしております。

次に、民泊、農泊の普及促進の部分でございますが、それらの普及促進を図るには、まずは日帰りの旅行プランを造成し、その需要を高めて滞在時間を拡大することで、宿泊のニーズにつなげていく必要があると考えております。このため、J R九州をはじめとする旅行会社を受入れ可能な収穫体験等をP Rし、ツアーに組み込んでもらうことで都市圏のみやまファンを増やしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（牛嶋利三君）

3番黒田清隆君。

○3番（黒田清隆君）

次に、ワンヘルスについて伺います。

ワンヘルスセンターが令和9年度に供用開始予定です。福岡県が全国初のワンヘルス拠点を整備することは非常に大きな意味があります。現在は、小中高までは浸透しつつあるように思われますが、それ以外の世代には広がっていないように私には思えます。

昨日も前原議員が質問されましたが、ワンヘルスの推進プロモーションは進んでいますか、お伺いします。

○議長（牛嶋利三君）

村越総合政策課長。

○総合政策課長（村越公貞君）

おはようございます。ただいまの質問に私のほうからお答えさせていただきます。

ワンヘルスのプロモーションが進んでいるかということでございますが、先ほど市長のほうからも御説明しましたとおり、ワンヘルスの啓発については、令和5年11月から「シリーズ One Health」と題して広報紙に毎月掲載のほうをしております。

また、ホームページのほうにもワンヘルスの特設サイトを立ち上げたり、ワンヘルスのインスタグラムを始めたりしております。

また、ワンヘルス楽校と称した市民講座を昨年7月から毎月1回開催しておりますが、昨年度は計9回の開催で、約800人の方に御参加をいただいているところでございます。

そのほかでも、ワンヘルスフェスティバルや出前講座、また、公用車を活用した啓発など取組を進めておりまして、少しずつではありますが、プロモーションのほうは進んでいるのではないかと考えております。

令和5年に行いました市民アンケートでは、ワンヘルスを知っているという方が約62.9%いる状況でございました。今後もこの数字を高めていけるような取組を進めてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（牛嶋利三君）

3番黒田清隆君。

○3番（黒田清隆君）

62.9%、多いですね。言葉は浸透しているかと思いますが、内容的なものがあるかと思っていますので、今後とも続けていってほしいと思います。

近年、ほかの自治体からワンヘルスの視察件数が増えてきているとお聞きしています。ワ

ンヘルスという一見難しそうに感じられるテーマですけれども、（資料を示す）現在はこういったワンヘルス宣言とか出前講座ですね、それと、こんな冊子、チラシ等を出されていますけれども、写真とか難しい言葉——難しいかはあれですけれども、難しい言葉を並べることよりも動画の力で分かりやすく伝えていく、映像作品を通じて「ワンヘルスのまち みやま」を国内外に伝えることは、みやま市独自の地域ブランドを築く絶好のチャンスだと思います。ワンヘルスの動画を作成したらいかがでしょうか、お伺いします。

○議長（牛嶋利三君）

村越総合政策課長。

○総合政策課長（村越公貞君）

ワンヘルスの動画を作ってみてはということでございますが、ワンヘルスをより分かりやすく市民等に啓発することというのは大変重要なことだと考えております。その手法として、動画に限らず、分かりやすい手法を検討することが必要だと考えております。

今現在、市民課のモニターにおいて、福岡県が作成したワンヘルスを分かりやすくまとめた動画のほうを流しております。これまでもシティプロモーション関係で動画などを作ってはきたのですが、なかなかうまく活用ができていない現状もございます。ワンヘルスに限らず啓発の手法というのは市民等に分かりやすくする必要があると私も考えておりますので、今後、費用対効果など十分に考慮して、効果的な手法を検討していきたいと思います。

以上でございます。

○議長（牛嶋利三君）

3 番黒田清隆君。

○3 番（黒田清隆君）

次に、フィルムコミッションについてお話を進めていきたいと思います。

交流人口や関係人口の拡大に直結する取組として、フィルムコミッションの設立を提案します。

フィルムコミッションとは、ちょっと聞き慣れない言葉だと思いますけれども、フィルムコミッションは、映画やドラマ、CMなどの撮影を地域に誘致し、行政や地域住民が一体となって支援する公的な機関です。地域に眠る風景や文化資産を映像を通じて国内外に発信し、観光振興や経済波及効果、地域の誇り、醸成につながる役割を担っています。宿泊業——宿泊業は清水山荘が主なんですけれども——や飲食業、交通事業など地域経済の波及効果は非

常に大きく、まさに地域を舞台にした経済循環が生まれています。

また、日本で初めてフィルムコミッションの実質的な活動を行った映画のまち北九州、昔は製鉄のまち北九州でしたけれども、35年間で支援した国内外の映画やドラマの作品は700件を超え、ロケに伴う経済効果は近年の7年間で21億円に上ると言われています。近年、フィルムコミッションの尽力により、映画やドラマの数が増え、作品完成後にはロケ地巡りの観光客が増え、市の認知度が飛躍的に高まりました。

このように、地域を挙げてのフィルムコミッション的な活動は、長期的な視点で地域の物語を育てていくものと考えます。フィルムコミッションの直接的、間接的な効果として、まず、直接的効果としまして、地域の情報発信の機会となり、地域のイメージアップ等が図られます。撮影隊が撮影期間中に現地で支払う宿泊費、食費、備品購入費など、今までになかった仕事が増える。間接的な効果としまして、完成作品の公開後にロケ地を訪れるファンによる聖地巡礼、観光需要の拡大、地域の景観や文化資源を全国や世界に向けて映像として発信させることによる認知度の向上、地域住民が地域のよさを再確認する地域愛が高まる、こうした間接的な観光需要は地域経済にとって非常に大きな柱になると思います。

映画やドラマ、アニメなどのロケ地を訪れ、作品の世界に浸る観光スタイルを聖地巡礼、ロケツーリズムとも呼ばれます。

特に、聖地巡礼の効果は無視できません。例えば、2016年制作の映画「君の名は」——アニメですけれども、戦後に作られた映画「君の名は」とはちょっと違いますけれども——の岐阜県飛騨市では、映画のワンシーンに登場した場所を巡る聖地巡礼が人気を集め、観光客の増加につながりました。

古くは、聖地巡礼として有名な映画「ローマの休日」、皆さんも見たことがあるかと思いますが、ローマのスペイン階段が有名です。映像作品に登場する風景が長期的な観光需要を生むケースは枚挙にいとまがありません。観光スポットを訪れる一般的な旅行とは異なり、作品に登場する普通のまちの風景に観光客が集まることもあります。地域誘客推進策として期待が高まっています。

ここで一つ、私の聖地巡礼の経験をちょっとお話しさせてもらいますけれども、今から40年ほど前、私が大学生のとき、著名な監督の名作映画「乱」という映画がありましたけれども、その富士山麓の御殿場の撮影現場にエキストラとして参加したことがあります。時代劇でしたけれども、撮影現場は緊張感と活気にあふれて、完成後、私も映画を見に行きまし

た。自分が映っているところはどこかなと思って探していく楽しみもありました。死体役でしたけれども、数百人の中で死体を探すことはちょっと大変でしたけれども——分かりませんでしたけどね。そういう楽しみもあります。地域が映画の一部になった感覚を共有することもできました。「乱」の撮影に参加したことは誰も知りませんが、私の自慢です。その後、御殿場にも旅行に行きました。新幹線で富士山を見るとあのときのことを思い出します。御殿場にはいい思い出しかありません。寒かったんですよね。でも、いい思い出しかありません。

観光振興策として経済効果を高めるため、フィルムコミッションの活動と既存の観光プロモーション戦略を統合、連動させることができないでしょうか、伺います。よろしくお願いします。

○議長（牛嶋利三君）

垣田商工観光課長。

○商工観光課長（垣田智章君）

お答えいたします。

現在、観光プロモーションにおきましては、シティプロモーションのコンセプトに沿った体験プログラムのつきなみ旅やグリーンツーリズムの収穫体験バスツアー、それから歴史的なガイド付きのオルレイイベント、そういったものを実施いたしております。

フィルムコミッション設立によるプロモーションにつきましても、シティプロモーションのコンセプトを発信する手段の一つと考えられると思います。

以上でございます。

○議長（牛嶋利三君）

3 番黒田清隆君。

○3 番（黒田清隆君）

次に、ある映画監督について触れたいと思います。

私自身、小田憲和監督との出会いは、今年1月26日、まいピア高田で開催された、みやま市青少年育成市民会議主催の脚本、監督をされた映画「翔べない鳥も空を見る」の上映会がありました。監督は、みやま市山川町出身の現在36歳、九州大学大学院を卒業後、福岡を拠点に活動されております。地域のつながりを大切にしながら、映画作成を続けております。映画、短編映画、CM、プロモーション、ショートムービー、ミュージックビデオなどの制

作、監督、脚本、編集、撮影、VFX——視覚効果ですね、演技指導を行っています。みやま市で撮影した作品も多く、御存じの方も多いかと思いますが、2012年に23歳の大学院生のときに「ぼくたちはここにいる」、みやま市立山川南部小学校を舞台にした作品で、中国のインディーズ国際映画祭で約1,000本の中から選出され、最優秀撮影賞、最優秀編集賞にノミネートされ、最優秀音楽賞を受賞されました。そのほか、みやま市で撮影された作品は「みやまで奏でて」、これはみやま市ホームページのみやまシティプロモーションの中にあります。そのほか「みやまに咲いた花火と揺れるブランコ」「ぐるぐるした夜に」「原丈雄に復讐する会」などがあります。

また、小田監督が二十四、五歳のときに撮影した映画が、今現在、全国的に知名度を誇り、映像、作品、CMとして幅広く世代に支持されている、今年、前期NHKの朝ドラで放映されている「あんぱん」の主演を演じられている女優さん、皆さんよく御存じかと思いますが、17歳から18歳の頃、2015年に主演で映画を撮影しています。また、その女優さんが出演した作品を、このみやま市で撮影しているということも聞いています。

監督は多くの賞を受賞されています。いっぱいあるんですけれども、一部を紹介すると、ニューヨーク国際映画祭ベストショートフィルム、バンクーバー・インディペンデント・ムービーメーカーアワードベストショートフィルム、ニューヨーク国際リール映画祭ベストショートフィルムなど多くの賞を受賞されています。世界最大級の短編映画コンペティション、24時間フィルムプロジェクトに挑戦されています。世界各地の都市で開催され、その中から選出された10作品は、カンヌ映画祭短編映画部門で上映されます。皆さんも御存じかと思いますが、カンヌ国際映画祭は、イタリアのベネチア国際映画祭、ドイツのベルリン国際映画祭といった世界三大映画祭の一つです。毎年5月にフランスの都市カンヌで開催されます。2022年の作品は、福岡でグランプリ、作品制作の様子はKBC「アサデス。」で放映されました。2022年、去年の作品「原丈雄に復讐する会」は日本代表に選出され、世界の興行120作品以上の中から15作品に選ばれています。カンヌ国際映画祭の短編部門にあと一步まで迫る快挙を成し遂げられました。日本の作品が15作品の中に残ったのは初めてだそうです。今年の話です。去年あって、今年結果が分かったということですね。今年は7月に行われます。今年も挑戦すると言っておられます。

小田監督はみやま市出身で世界に挑戦しているということは、市としても大変誇らしいことだと思います。こうした監督の活躍をみやま市のシティプロモーションに生かすことは

きないでしょうか。

小田監督は、2021年映画「こどもばんぱく」というのを制作されています。子供たちが主体となって、イベントを通じて挑戦し、成長するストーリーが描かれています。福岡県、佐賀県で上映されました。監督に小学校、中学校で講演していただくことにより、子供たちに夢を持たせ、夢を育てるきっかけになると思います。

一昨日、一般質問で瀬口議員がスポーツ・文化・芸術が大切、アーティストが誕生することを願うということと言われたかと思います。藤岡教育長は、子供たちの夢や希望がかなうことを願うと、そういう趣旨のことを言われたかと思います。

少し長くなりましたけれども、世界に挑戦しているみやま市出身の若く才能のある小田監督を知ってもらったためだったからです。

みやま市は、監督と協力できる特別な関係性を持っているかと思います。監督は、みやま市のことを発信する関係人口の一人です。みやま市との関係人口の一人です。マスコミとの関係性も強いと思います。

こういったみやま市を発信できる交流人口、関係人口を増やすことがとても大切かと思います。監督のような地域にゆかりのあるクリエイターと市のプロモーションにおいて連携することは、映像作品を通して、みやま市の魅力発信や関係人口の創出の可能性があると思いますが、どう思われますか、伺います。

○議長（牛嶋利三君）

村越総合政策課長。

○総合政策課長（村越公貞君）

地域にゆかりのある方と連携して地域の活性化につなげていくことというのは、大変いいことではないかと思っております。

映像関係のクリエイターの方とどのような連携ができるのか、どのように地域活性化につなげていくのかというのを調査研究していきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（牛嶋利三君）

3 番黒田清隆君。

○3 番（黒田清隆君）

フィルムコミッションを立ち上げるには法的手続はありません。先ほども説明いただきま

したけれども、非営利、公的機関であること、サービスが無償で提供すること、作品を問わないこと、非常識的な制作者には全面的に協力する義務はないとも思っております。

近隣では、柳川フィルムコミッションが2013年3月に設立、柳川市はNHK大河ドラマ誘致活動を続けています。松永柳川市長は、活動も9年目になり、早めに実現すればと願っていると話しています。もしかしたら、みやま市もロケ地になるかもしれません。

八女フィルムコミッションは、2022年7月に設立されています。

私は、フィルムコミッションの立ち上げに際して、初期費用や必要な職員数、専門的知識などの有無など基本的なことが分からず、インターネットで調べても不十分な情報しか得られませんでした。

そこで、実際、2022年に設立された八女市役所を訪れ、八女フィルムコミッションの実情を伺いました。同フィルムコミッションは、現在、専任ではなく、兼任の職員1人で対応されています。年間の打合せ件数は50件、うち20件が実際のロケにつながっているとのことでした。費用面では、ジャパン・フィルムコミッションへの年間費100千円、入会は任意ですが、入会することで制作会社やテレビ局への情報を広く届けることができます。それと、ホームページ用の写真や動画の制作費、ホームページの管理費などが必要です。職員がロケ地に関する要望に対応できない場合は、市役所内の他部署と連携し、解決しているとのことでした。制作会社にとって、市役所に直接連絡するのはハードルが高く、フィルムコミッションの存在が大きな安心材料になっているという声もありました。

そこで、みやまフィルムコミッションを立ち上げることを考えてみました。まず、ホームページの動画や写真を制作する。もし、写真や動画費用を抑えることを考えるのであれば、これまでにみやま市が保有している市内の魅力的な風景や場所の写真を使用する、ほかに観光協会が持っているフォトコンテストの素材、インスタスポットの情報なども活用できるかと思います。もし、写真、動画がなければ、フォトコンテスト、動画コンテストを企画するといった方法もあるかと思います。

職員が不足する場合は、おととい、一般質問で中尾議員が積極的に活用しようと言われた地域おこし協力隊の活用もできるかと思います。専門的対応が必要な場合は小田監督へ相談などができるのかなと思っています。あとはホームページを立ち上げ、みやまフィルムコミッションを始めましたと宣言することだと思っています。事務的なことはちょっと分かりませんが、そういう流れで行けるのかと思っております。

フィルムコミッションというと、片仮名で言われるとちょっと難しく感じられるかもしれませんが、要はみやま市の自然や歴史、文化的魅力を外部に発信する仕組みです。既に商工観光課が取り組んでいる業務との連携も、先ほども答えていただきましたけれども、十分可能だと考えています。

みやま市は、豊かな自然、歴史ある神社・仏閣、趣のある農村風景などの日本の原風景が残っているかと思います。他地域に誇れるロケ地の魅力が十分にあります。

私は映画のエンドロールが終わるまで席を立ちません。みやま市のロケ地を通じて、歴史に関わった人全てに感謝を込められたエンドロール——最後に流れる文字のところですね、最後に撮影地みやま市、撮影協力みやま市の文字が流れるだけでも、みやま市を全国に発信するチャンスになるかと思います。

聖地巡礼ロケツーリズムは、みやま市の魅力を掘り起こし、交流人口を増やし、関係人口を育てる地域活性化の手段として有効であり、最終的には定住・移住の促進にもつながると思います。そのためにもフィルムコミッションが大切だと考えます。

昨日の一般質問で、前原議員が、本市は有能な職員さんが多いと思います。新しいことにチャレンジ精神を持って当たってほしいと述べられておりました。市長もうなずかれたと思っています。どうでしょう。最後にみやま市フィルムコミッションを立ち上げませんか、市長にお伺いします。

○議長（牛嶋利三君）

松嶋市長。

○市長（松嶋盛人君）

黒田議員の御質問にお答えいたします。

最初の答弁でも申し上げましたとおり、設立や運営のための財源確保、そして、組織を担う人材の発掘、担当部署の人員の確保や地域の受入れ体制の在り方など、設立には様々な課題というか、そういう部分のフィルムコミッションの組織のほうの文書を調べてみても、いろんな課題があるというふうに伺っております。

今御提案をいただいた部分につきましては、本市のシティプロモーションの推進にプラスになると思いますし、ワンヘルスの理念の啓発、促進には大きく寄与するものとも思っております。

ですので、今の御提案、設立による効果や課題、また、近隣の八女市でありますとか、柳

川市、それから北九州市とか、それぞれのフィルムコミッションを立ち上げられているところを調査研究させていただきながら、できるところから進めさせていただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（牛嶋利三君）

3 番黒田清隆君。

○3 番（黒田清隆君）

私は、このように世界に挑戦している若い才能のあるクリエイター小田監督は、みやま市ふるさと観光大使にふさわしいと思います。先ほども言いましたけれども、監督はみやま市のことを発信する関係人口の一人と思っております。

フィルムコミッションの設立には、地域の魅力を全国、世界に発信する大きな柱になります。いきなり定住や移住を促進するのは容易ではありません。地域資源を物語として映像化し、地域資源の価値を高め、それを交流人口、関係人口の拡大に生かす取組は、みやま市の未来に直結するものだと確信しています。市長をはじめ執行部の皆様には具体的な方向性と展望をお示ししていただきますよう、よろしくお願いします。

以上で私の一般質問を終わります。御清聴ありがとうございました。

○議長（牛嶋利三君）

ここで暫時休憩します。休憩後の会議は10時25分ぐらいからかな。

午前10時12分 休憩

午前10時27分 再開

○議長（牛嶋利三君）

休憩前に引き続き会議を再開してまいります。

一般質問を続けます。

続きまして、5 番森弘子君、一般質問をしてください。

○5 番（森 弘子君）（登壇）

皆様こんにちは。5 番議員森弘子です。ただいま議長の許可をいただきましたので、今議会の一般質問の大トリを務めさせていただきます。

傍聴に来ていただいた皆様、ネットで聞いていただいている皆様、あと一人になりましたので、どうぞよろしくお付き合いください。

それでは、今回の1問目は、みやま市の観光の一つ「清水山ぼたん園」にもっと力をというテーマで質問させていただきます。

みやま市の観光の一つである清水山ぼたん園の管理は、みやま市観光開発協議会で行っていることは知っていますが、その一つのメンバーであるみやま市として、もっと力を入れて助言していただくべきではないかと思い、質問させていただきます。

今年はイノシシにボタンの木をやられてしまい、開園が危ぶまれたと聞きます。それでも、たくさんの方たちの応援で今年も無事にぼたん園が開園できました。これからもぼたん園を開園し続けていくのであれば、もう少し力を入れるべきではないでしょうか。ぼたん園のファンをつくるといったイメージでいかがでしょうか。

具体的事項1として、清水山ぼたん園への過去10年間の入場者数の推移を教えてください。

以前は、観光バスが上がってきたり、駐車場も満杯になるなど入場者も多かったのですが、今は観光バスも上がってこないとお土産コーナーに出店されている方たちが言われます。どうでしょうか。

具体的事項2として、清水山ぼたん園への入り口、階段を下りところが手すりもなく、バリアフリーではなく、ぼたん園へ行けない方もおられます。どうにか解決できないでしょうか。

清水山ぼたん園の入り口が階段になっており、足が御不自由な方や車椅子の方は御自分で歩いていくことができず、諦めて待っておられるそうです。せっかくきれいなボタンの花を見に来られたのにと残念がられているそうです。ここを何かに改修できませんでしょうか。

私は先日、マリンメッセに、この質問の材料、ヒントになるためのA Iのセミナーに行きました。そこには、A Iとはかけ離れて、筑後市の企業版ふるさと納税のブースがあったり、いろんなブースがありました。

その一つのブースに「みやま市・・・」と書いてあるのを見つけました。これはどういう意味なのか尋ねると、そのブースの方は、無人で運転できる車を観光に使ってもらおうという自動運転車の会社のブースで、以前、山川に無人で行き来をしていたカートを販売している車の会社でした。その方が言われるには、このようにたくさんの方たちが興味を持たれています。ぜひみやま市でも車をお蔵入りせずに、どんどん使ってくださいと言われました。ぜひこのカートを体の御不自由な方たちへの送迎用に使っていただけないでしょうか。

また、ぼたん園入り口からのぞくと、この先にぼたん園があるとは想像できない景観です。

ぼたん園を見に来る人にとって、ボタンの木がきれいなのはもちろんですが、周りの雰囲気というか、景観をもう少し明るくするとか、景観をよくすることはできませんか。

そして、具体的事項3は、観光地に行つての楽しみは、その土地のお土産を買うことも楽しみの一つにあります。出店者の方が売上げが少ないという理由で減っていると聞きます。取りまとめているみやま市観光協会と相談をされて、出店者が1件でも多くなり、にぎわいが出るように検討してください。では、よろしくお願いします。

○議長（牛嶋利三君）

松嶋市長。

○市長（松嶋盛人君）（登壇）

では、森議員のみやま市の観光の一つ「清水山ぼたん園」にもっと力をとの御質問にお答えいたします。

答弁に先立ちまして、清水山ぼたん園につきましては、商工会、観光協会、J A及び本市の4団体で構成されましたみやま市観光開発協議会により管理、運営がなされております。平成5年の開園以降、色とりどりの見事な大輪の花をたくさんの方に楽しんでいただいておりますが、昨年10月にイノシシによる甚大な被害を受け、閉園も検討されたところでございます。

このような中、みやま市観光開発協議会及び地元有志の皆様のボランティアによる復旧作業により、本年も開園を迎えることができましたことは、関係者の皆様の御尽力の賜物であります。この場をお借りいたしまして、改めて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

それではまず、1点目の清水山ぼたん園への過去10年間の入場者数の推移についてでございますが、コロナ禍前の平成28年から平成31年までの間は、年間約6,000人から約9,000人の入園者数で推移しており、コロナ禍収束後の令和5年度以降は5,000人程度の入園者で推移しております。

本年はイノシシ被害の影響を懸念しておりましたが、奥にあります藤棚とその背景である愛宕山の景観を生かすため、ぼたん園を覆っていたビニールハウス骨組みの撤去や管理棟を改修し、お茶とおだんごセット、玩具花火、高菜漬け、日本酒などの販売ブースの設置、また、来園者にはイノシシの肉でありますボタン鍋の振る舞いなどを実施されたことなどにより、ここ数年と同じく約5,000人の来園者がお見えになられております。

加えまして、来園者からは、今後もぼたん園が継続できるよう募金をいただき、例年にないにぎわいを見せた開園期間であったと伺っております。

また、観光バスにつきましては、把握できたものだけで14台ということでございます。

次に、2点目の清水山ぼたん園のバリアフリー改修についてでございますが、ぼたん園までの経路といたしましては、清水特産品販売所の駐車場から階段を下り、市道を通って、ぼたん園入り口の石畳を上るルートとなります。階段は令和元年に、ぼたん園入り口の石畳は令和6年度に、それぞれ手すりを設置しております。

市道部分につきましては、ぼたん園の東側にある清水寺本坊へ往来される住職や門徒の方が使用されることから、通行の妨げとなる手すりの設置は難しい状況でございます。

なお、昨年度、本市の総合政策課が実験的に行いました清水山荘から第3展望台を往復する自動運転車両の運行につきましては、高齢者等からの評価が高かったことから、来年度はぼたん園の開園期間中に限り、清水特産品販売所からぼたん園入り口までのルートにおいて同車両の運行を検討したいと考えております。

続きまして、ぼたん園自体の見通しの確保につきましては、繁茂する雑木やカズラの伐採、剪定を進めていくと伺っております。費用面もございますので、一朝一夕には難しいとは思いますが、階段を下りた通路からぼたん園越しに愛宕山が臨めるように整備されとお聞きしております。

次に、3点目の清水山ぼたん園のお土産コーナーについてでございますが、清水特産品販売所の駐車場に設置したテント販売ブースにつきましては、みやま市観光開発協議会の4団体のうち、観光協会が主体となって事業者へ出店を依頼されているものでございます。御指摘のとおり、以前は、飲食ができるブースの出店があったとのことですが、コロナ禍以降、出店者が減っているとお聞きしております。

このことを踏まえまして、本年度は新たな取組として、瀬高駅前広場や中之島公園等でイベントを実施されているみやまマルシェに依頼し、道の駅みやまの協力もいただきながら、本市の特産品である農産物の販売や、清水山荘内でカフェをオープンしている山荘かふえ カシカシュのお弁当、焼き菓子の販売が行われております。

以上のように、清水山ぼたん園につきましては、みやま市観光開発協議会の4団体はもとより、地元行政区、オルレ協議会、清水寺、イベント団体、清水山荘、地域おこし協力隊など関係者の皆様の御尽力により、本市の観光名所として継続されているものでございます。

本市といたしましても、今後も本市を代表する花の名所として広く認知された清水山ぼたん園の魅力を引き続き発信しながら、さらなる観光客の誘致、交流人口の増加を図り、本市の活性化につなげてまいります。

以上です。

○議長（牛嶋利三君）

5 番森弘子君。

○5 番（森 弘子君）

市長ありがとうございました。

それでは、市長の回答に沿って再質問させていただきます。

この自動運転車両の運転は、ぜひ実施してください。運転する人が必要ですが、高齢者や足の御不自由な方で今まで遠慮されていた方たちもボタンの木を見に行けるので、残念な気持ちになることがありません。ぜひ市長よろしくお願いします。ぼたん園の観光マップにも、ぜひ自動運転車両を始めたことを載せてください。

では、この自動運転車両について少し深掘りさせていただきます。

昨年度、本市の総合政策課が実験的に行いました清水山荘から第3展望台を往復する自動運転車両の運行について、高齢者などからの評価が高かったそうですが、全体で何日ぐらい運行され、何人ぐらいの方が乗車されたのか、教えてください。

○議長（牛嶋利三君）

村越総合政策課長。

○総合政策課長（村越公貞君）

ただいまの御質問には、私のほうからお答えさせていただきます。

昨年11月に、紅葉がきれいなときに清水山もみじ狩りツアーと称して、自動運転車両を活用した取組を行っております。

期間といたしましては、11月23日、24日、土曜、日曜の2日間で、合わせまして43名の方が利用しておられます。

以上でございます。

○議長（牛嶋利三君）

5 番森弘子君。

○5 番（森 弘子君）

ありがとうございます。

では、今回の清水山ぼたん園では、おおよそでいいので、会期中何日ぐらい、1日何回ぐらい、おおよそ何人ぐらいの方を乗車させていただけるのか、教えてください。

○議長（牛嶋利三君）

村越総合政策課長。

○総合政策課長（村越公貞君）

来年度の検討内容ということでよろしいでしょうか。

ぼたん園につきましては、この車両は、今、総合政策課や商工観光課、農林水産課、また観光協会の職員の方に自動運転が運転できるような講習を受けていただいて、運転手の確保にも努めておるところでございます。

来年度につきましては、何日ぐらい運行ができるかということでございますが、来年度に関しましては、商工観光課や関係団体と検討を行いまして、決定していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（牛嶋利三君）

5番森弘子君。

○5番（森 弘子君）

なるべく多くの方が利用できるようによろしくお願いします。

今回、この自動運転車は運転手が必要なようです。あくまでもお客様を運びますので、事故のないように注意されて、お願いいたします。

ぼたん園を見に行くと、今年、ぼたん園の剪定をされた剪定士の方にゆっくりお話を伺うことができました。来年はもっとこのボタンの木を大きくして、愛宕山をバックにぼたん園を造っていけばよいですねと言われました。ぼたん園の見通しも何年かけて剪定されるなら、あの鬱蒼とした雰囲気もよくなり、清水山の印象もずっとよくなると思います。

また、入り口に看板がありません、下りていくところにですね。最初の頃は手作りの看板を作ったそうですが、入り口を迷ってあって、尋ねる方もいらっしゃるということで、ぜひ会期中に、のぼりはたくさんかけてあるんですけれども、簡単な看板でいいので、看板を設置していただきますようにお願いします。

そして、ボタンの花を見に来られているので、今、花が三分咲き、満開である、終わりが

けであると分かるように、花の様子を入りに展示されれば、お帰りに高い入場料を払ったけど、まだまだ花はまだだったとか、お怒りになる方も少なくなると思いますので、どうぞよろしくお願いします。市長、いかがでしょうか。

○議長（牛嶋利三君）

松嶋市長。

○市長（松嶋盛人君）

表示についてはとても大切なことだと思いますので、今おっしゃった部分については進めさせていただきたいと思います。

○議長（牛嶋利三君）

5 番森弘子君。

○5 番（森 弘子君）

よろしくお願いします。

また、出店者についてもみやマルシェに依頼したり、道の駅みやまの協力をいただいたりしてにぎわいが出てきたら、ほかの団体も、私も私もと手を挙げていただけるような方も今後出てくるのではないのでしょうか。この出店をお願いするのは、会期中、何曜日に何日ぐらいでしょうか、教えてください。

○議長（牛嶋利三君）

垣田商工観光課長。

○商工観光課長（垣田智章君）

私のほうからお答えいたします。

店頭販売ブースの設置、それから、それに対する出店でございますが、観光開発協議会 4 団体のうち、観光協会のほうがその出店依頼等をされておりますので、来年度の具体的な出店の計画につきましては、観光協会のほうで具体的に計画をされると考えております。

以上でございます。

○議長（牛嶋利三君）

5 番森弘子君。

○5 番（森 弘子君）

ぜひにぎわいが出るようによろしくお願いします。

今はネットが進んでおり、出店者は SNS とかで出店の状況を皆さんにお知らせしてくれ

ます。そうすると、情報を得られた人はその場所に会いに行きます。出店者はそんなお客さんを何人も持っていますので、そういう方たちを増やして入場者を増やして欲しいと思います。

今年は中山の藤と黒木の藤を見に行きました。たくさんのお店が出ていて、にぎわっていました。みやまのぼたん園もこうなればいいなと思いました。やはり観光と買物は大事だと思います。

この質問を通告したところ、一部の市民の皆さんから、なぜ今頃ボタン園の質問をという声が出たそうです。ぼたん園ができてから35周年たとうとしています。最初の頃はにぎやかだったぼたん園で、役場に勤めていた私たちは出資して、ぼたん園の株券なるものをもらった記憶があります。そして、取材にたくさん来られていたテレビ局も最近では取り上げられることも少なくなりました。やはり昨日の一般質問にも出ていましたが、マスコミの対応は大事だと思います。早めにリニューアルすることをマスコミに流してください。

また、団体でも来てもらえるように、旅行会社にはパンフレットを作られる前にお知らせをしてください。パンフレットをもらったお客様は、たとえそのツアーを利用されなくても御自分で来られる可能性もあります。お忙しいとは思いますが、みやま市観光開発協議会で手分けをして、この小まめな対応は肝腎だと思います。ぜひ対応をお取りください。

財政の厳しいみやま市にとって、新しく観光地をつくることは難しいと思います。それなら、今残された既存の観光地に市が持っている財産、今回は自動運転車ですが——を利用して、手を加えて、もう一つ巻き返しをすれば、今より少しはお客様が遊びに来てくださると思います。

また、観光客のリピーターを育てて魅力ある観光地に育てていく。そのお客様が少しでもお金を落としていただければ、それは回り回って市の税収につながります。こうやって少しずつ税収を積み上げなければ、今のところ大きく税収増を見込めるところがありません。交付金や補助金頼みの自治体では、市は大きくなりません。もっともっとみやま市を大きくしたいと思います。だから、少しずつ手堅く税収増に力を入れていこうではありませんか。市長いかがでしょうか。市長のお考えをお聞かせください。

○議長（牛嶋利三君）

松嶋市長。

○市長（松嶋盛人君）

おっしゃるとおり、交流人口を増やす、それから、地域活性化につながる税収増につきましては、様々な方法としてまた取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○議長（牛嶋利三君）

5 番森弘子君。

○5 番（森 弘子君）

最後に、今年が5,000人の来園者数でしたら、来年は1,000人増えて、6,000人のお客様に来ていただけることを願っております。

これで1問目の質問を終わります。

○議長（牛嶋利三君）

5 番森弘子君。

○5 番（森 弘子君）（登壇）

それでは次に、2問目に移ります。

2問目は、MIYAMAXロビーコンサートへ聞きに行けない人の対応についてお尋ねします。

MIYAMAXロビーコンサートというすてきなミニコンサートが無料で聞けるらしいので行ってみたいが、交通手段がないので行けない、みやま市にはMIYAMAX以外にもホールがあるので、たまにはやっていただけないだろうかという声が出ています。

そこで、具体的事項①として、MIYAMAXロビーコンサートに誰もが行けるようになるためにどうにかならないのか、お尋ねします。

無料で聞けるMIYAMAXロビーコンサートは、主催者の方たちの苦勞を経て、来場者も随分毎回増えて、よいコンサートに定着し、MIYAMAXの名物になりつつあると思います。しかし、MIYAMAXに近い人は心配なく行けるが、夜なので交通手段がなく行けないと嘆いている方の声を聞きます。その方たちを助ける手段はありませんか。

みやま市では、MIYAMAXに多く楽しい催物があって、MIYAMAXに行く交通手段を持っていない人は何か疎外感を感じていると言われます。

具体的事項②として、MIYAMAXとまいピア高田とのすみ分けを教えてください。

○議長（牛嶋利三君）

藤岡教育長。

○教育長（藤岡育代君）（登壇）

森議員のMIYAMAXロビーコンサートへ聞きに行けない人への対策についての御質問にお答えをいたします。

まず、1点目のMIYAMAXに行くための交通手段がない人を行けるようにするためにとの御質問でございますが、現状としては、イベントの開催時間について、コミュニティバスなどの運行に配慮した企画も検討する必要があるのではないかと考えております。

MIYAMAXが建設される以前は、市として開催する事業があまりできておりませんでした。昨年度より、ロビーコンサートをはじめとして、企画運営委員会で検討した事業を手探りで進めている状況でございます。

そのような中、ロビーコンサートに行きたいという声は本当にありがたく感じています。昨年同様に、平日の夕方だけではなく、土曜日などの日中にも開催を検討したいと考えておりますので、御理解をいただきますようよろしくお願いいたします。

2つ目のMIYAMAXとまいピア高田のすみ分けについてでございます。

MIYAMAXの建設の後、まいピア高田において気軽に行ける催物がないということでございますが、本市が行う事業につきましては、事業内容、規模、収容人数等に応じて、山川市民センター、まいピア高田、MIYAMAX、それぞれ最適な場所で開催することとしております。

また、各種団体が利用される場合も、同様に事業内容に合わせた利活用を進めております。

今後も、施設の特徴に応じた利活用を推進してまいりますので、御理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（牛嶋利三君）

5 番森弘子君。

○5 番（森 弘子君）

MIYAMAXとまいピア高田とのすみ分けは、事業内容、規模、収容人数等に応じて分かれているということが分かりました。

もしMIYAMAXが建設されなければ、大きなステージはきっとまいピア高田で行われてあったのではないかなという御意見もあります。

今みやま市に住んでおられる高齢者の不満の一つは交通手段です。特に免許証を返納された方たちは、今まで自分で運転をして、好きなところへどこへでも行けたのが、行けなくなって不満を持っておられます。もうすぐ乗合タクシーが動き出しますが、今は何もできな

いと嘆かれます。

日々、私も含めて、何かとストレスを感じられる今日この頃です。市民の皆さんの考え方も変わり、市に対しての不満の声も聞きます。そんなとき、全ての人がそうなるとは言えませんが、芸術、文化、音楽に触れるとその不満も洗い流してくれます。気持ちが楽になります。そうなるように、ここは社会教育課の出番だと思います。たまにはゆっくりいい音楽を聞いて日々の流れを癒やしてくれる、そんな機会を山川町、高田町の方にも与えてください。コンサートの出演者たちも、みやま市近郊に住んでいる地元の方々です。皆さん聞いてみたいと思っていっぱいます。みやま市を音楽あふれる芸術のまちにできたらいいと思います。教育長いかがでしょうか。

○議長（牛嶋利三君）

藤岡教育長。

○教育長（藤岡育代君）

議員がおっしゃるとおりに、市民の皆様幅広くこのロビーコンサート等を楽しんでいただけるような交通手段のこととか、今後考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（牛嶋利三君）

5 番森弘子君。

○5 番（森 弘子君）

次の事項②についてです。

私はMIYAMAXとまいピア高田、山川市民センターの現在の使用状況を比較して、公平に使用されているのかお尋ねしたかったのですが、質問の内容が悪く、通告外であると言われて、数字の提出を断られましたので、これは次の議会できっちりと数字を提出してもらい、検証したいと思いますので、事項②は取り下げます。

○議長（牛嶋利三君）

村井社会教育課長。

○社会教育課長（村井美和君）

今、通告外と言われましたが、MIYAMAXとまいピア高田、山川市民センターのホール等を含めた全ての利用状況であれば、今数値を持ち合わせておりますので、ここでお伝えできますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

利用状況については、令和6年度につきましては、MIYAMAXのほうで10万1,137名、山川市民センターが2万1,792名、まいピア高田が6万6,876名という状況になっております。合計しますと、3施設合わせて18万9,805名と約19万人近い皆さんに利用いただいております。

この数値を前の年度とかと比較しますと、昨年度よりも5,000人ほど増えておりますし、今私たちがこの数値、利用状況の比較をする際に基準とするのは、コロナ前の平成29年度を目標に、そこにまた戻るようにと、いろんな利用状況をするときは指標をしております。平成29年度の3施設というか、平成29年度は瀬高町がまだ瀬高の公民館の時代ですので、人数が少のうございますが、16万9,308名でした。それに比べると、やはり大きい施設を造りましたので、利用が伸びている状況です。

以上、数値について御報告しておきます。

○議長（牛嶋利三君）

5番森弘子君。

○5番（森 弘子君）

ありがとうございました。

数字が伸びていって、皆さん使っていただいているということですので、いいことだと思います。

みやま市は人口がだんだんと減っていくにもかかわらず、ホールが前の町ごとに1か所ずつあり、そして、前に建てられた物件は故障も出てきています。今後、この故障費の問題はみやま市の大きなネックになろうかと思えます。

今回の図書館のリニューアルも、私が図書館に勤めていた20年前も、夏場になると暑い暑いという苦情が殺到し、職員も対応に大変でした。そして今年、やっとリニューアルです。この問題は建物が古くなると避けては通れません。

MIYAMAXとまいピア高田、山川市民センターで、それぞれの持ち場によって、皆さんたくさんの方が来ていただけるような、そういう催しをぜひよろしくお願いいたします。

これで5番森弘子の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（牛嶋利三君）

ここで皆さん方にお諮りをいたします。

議事の都合によりまして、6月23日から26日までの4日間を休会にしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（牛嶋利三君）

御異議なしと認めます。よって、6月23日から26日までの4日間を休会することと決定いたしました。

なお、6月23日から25日までの3日間は、各常任委員会の委員会開催となっておりますので、御承知おきをお願いいたします。

以上をもちまして本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会をいたします。

なお、次の本会議は6月27日となっておりますので、皆さん方には御承知おきをお願いしておきたいと思います。

午前11時04分 散会